2026年11月10日

各　位

会 社 名　東京汽船株式会社
代表者名　代表取締役 社長執行役員　齊藤　宏之
（コード番号：9193　東証スタンダード市場）
問合せ先　取締役 専務執行役員　佐藤　晃司
（TEL　045-671-7713）

2027年３月期　業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年６月24日に公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．連結業績予想の修正について

2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想数値の修正（2026年４月１日～2026年９月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	6,304	△314	△175	△11	△1.18
今回修正予想（B）	6,624	38	295	311	31.26
増減額（B－A）	319	352	471	322	－
増減率（％）	5.1%	－	－	－	－
（ご参考）前期実績（2026年3月期第2四半期）	6,812	37	184	31	3.16

2027年３月期通期連結業績予想数値の修正（2026年４月１日～2027年３月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	12,535	△413	△155	37	3.81
今回修正予想（B）	13,075	△273	40	114	11.47
増減額（B－A）	539	139	195	76	－
増減率（％）	4.3%	－	－	201.0%	－
（ご参考）前期実績（2026年３月期）	13,144	106	347	5,046	507.08

２．修正の理由

2027 年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想につきましては、主力の曳船事業における作業対象船舶の状況は、中東情勢の影響を受け危険物積載船の入港数は予想どおり大幅に減少したものの、国内備蓄原油の輸送に伴う代替需要や米国はじめ他地域からの原油船の入港があり、売上高は当初予想より 319 百万円上回り、営業利益は 38 百万円（当初予想 314 百万円の営業損失）となる見込みです。

また、受取配当金や持分法による投資利益が寄与し、経常利益は 295 百万円（当初予想 175 百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する中間純利益は 311 百万円（当初予想 11 百万円の中間純損失）となる見込みです。

2027 年３月期通期連結業績予想につきましては、中東情勢は先行き見通しが見えない状況で、今後も海上物流の混乱が続くことが予想されております。

主力の曳船事業においては、現時点では中東情勢による作業対象船舶の入出港数の減少は想定の範囲内で推移しておりますが、原油調達の代替輸送が落ち着くことで減少幅の拡大が懸念されます。

営業費用に関しては、原油価格は高止まりで推移するとの前提で、当社連結グループ全体で燃料費は前期に比べ約４億円（30%程度）の増加を見込んでおります。

この結果、売上高は当初予想より 539 百万円上回り 13,075 百万円と予想しておりますが、燃料費の増加が影響し 273 百万円の営業損失（当初予想 413 百万円の営業損失）となり、経常利益は 40 百万円（当初予想 155 百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純利益は 114 百万円（当初予想 37 百万円の当期純利益）となる見込みです。

（注）上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上